

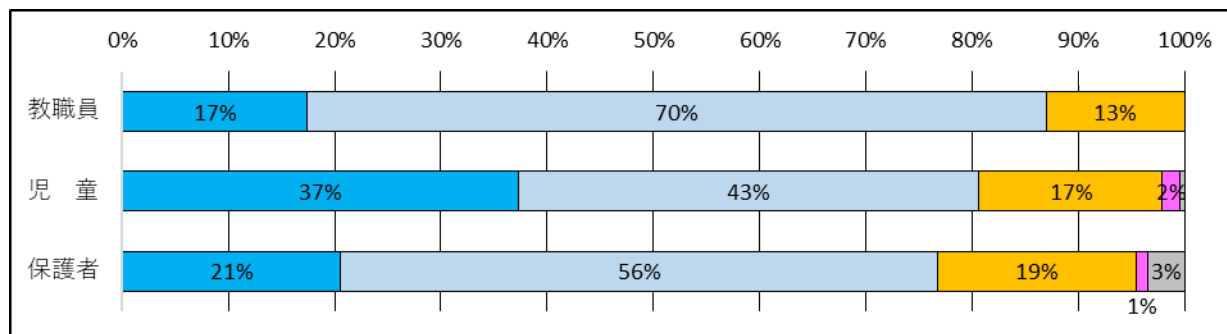
令和6年度 後期 学校評価アンケートの結果について

凡例 … ■達成されている ■ほぼ達成されている ■あまり達成されていない ■達成されていない ■分からない

笑顔あふれる

① 学校生活を明るく彩るあいさつ

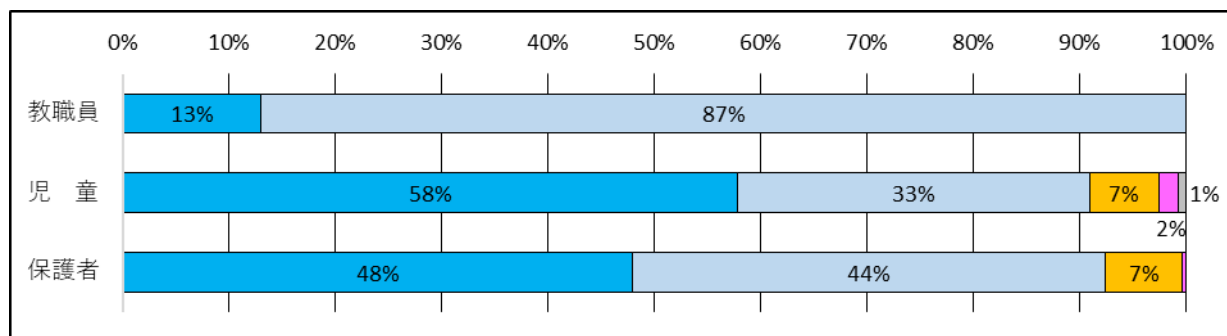
◇あいさつの指導（教職員）－あいさつの取り組み状況（児童・保護者）



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 87%、児童 80%、保護者 77%でした（前期：教職員 83%、児童 83%、保護者 77%）。児童会、学年、学級によるあいさつ運動を中心に、子どもたちのあいさつに対する意識が高まるように取り組んでいます。教職員も率先してあいさつをするように努めています。引き続き、どんな場面でも元気なあいさつのできる子どもを育てていきます。

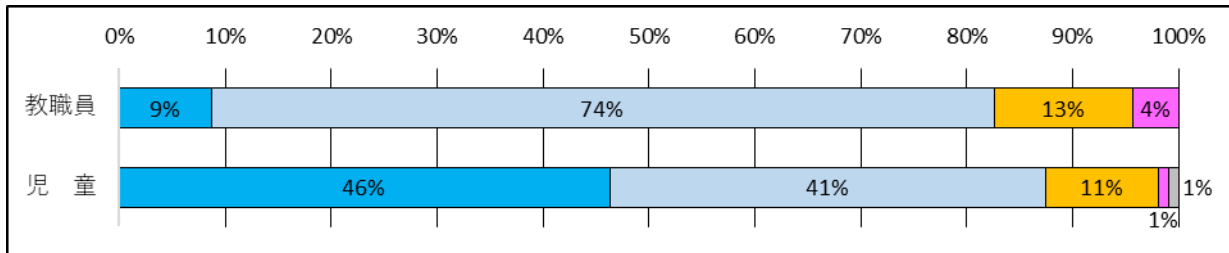
② 高め合い、自己肯定感を育む学級づくり

◇明日も学校へ行きたくなる手だてを講じた（教職員）－学校が楽しい（児童・保護者）



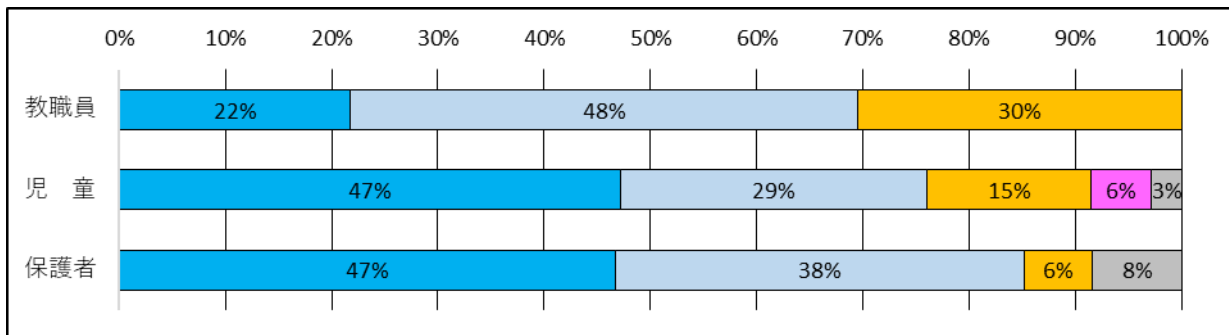
「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 100%、児童 91%、保護者 92%でした（前期：教職員 91%、児童 92%、保護者 92%）。1学期に続き、たいへん高い評価をいただきました。なかよし集会やなかよしタイムなどの異学年交流、校外学習や体験学習などで、子どもたちの「楽しかった」という声がたくさん聞かれました。これからも、さまざまな「楽しい」を創出し、「明日も行きたくなる学校」の実現をめざします。

◇級訓を核にした学級経営（教職員）－級訓を意識して生活している（児童）



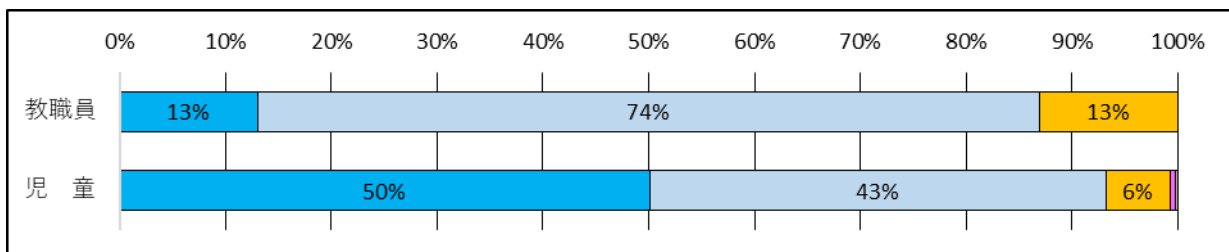
「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 83%、児童 87%でした（前期：教職員 96%、児童 90%）。これからも、日々の教育活動に対して、級訓に基づく具体的なめあてを決め、それを達成していくことにより、高め合う学級集団を育成していきます。3学期は、級訓を達成してクラスを完成させる実践に取り組んでいます。

◇教育相談の取り組み（教職員）－先生は丁寧に相談にのってくれる（児童・保護者）



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 70%、児童 76%、保護者 85%でした（前期：教職員 87%、児童 78%、保護者 82%）。いじめや悩みなどの早期発見・早期解決のため、毎日の「心の天気」と学期に1回の「心のアンケート」を中心に教育相談を行っています（「心の天気」は、子どもがタブレット上で選択した天気によって、担任が秘密を守って話を聞く仕組みです）。これからも子どもに寄り添い、何でも相談できるような信頼関係を築いていきます。

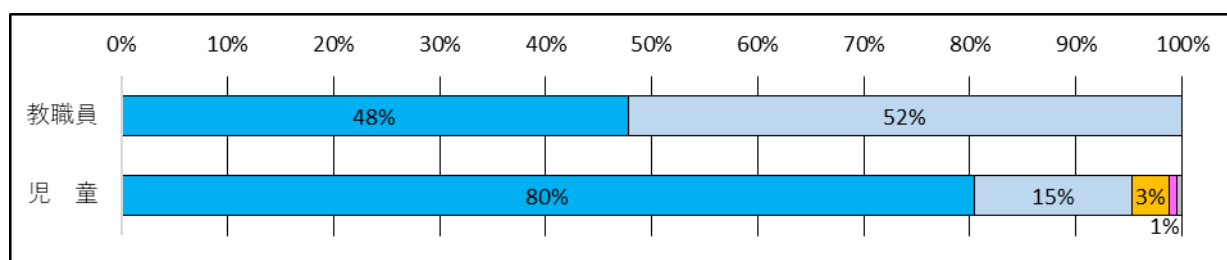
◇清掃の三大目標への取り組み状況



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 87%、児童 93%でした（前期：教職員 79%、児童 91%）。今年度は、三大目標の中の「静かにやります。」に力を入れてきました。高学年の清掃の様子を低中学年が見学する活動や、委員会の企画を通して、子どもたちが無言で集中して清掃に取り組むようになりました。これからも、三大目標の意義を子どもたちと確認し、清掃にしっかりと取り組める子どもを育てていきます。

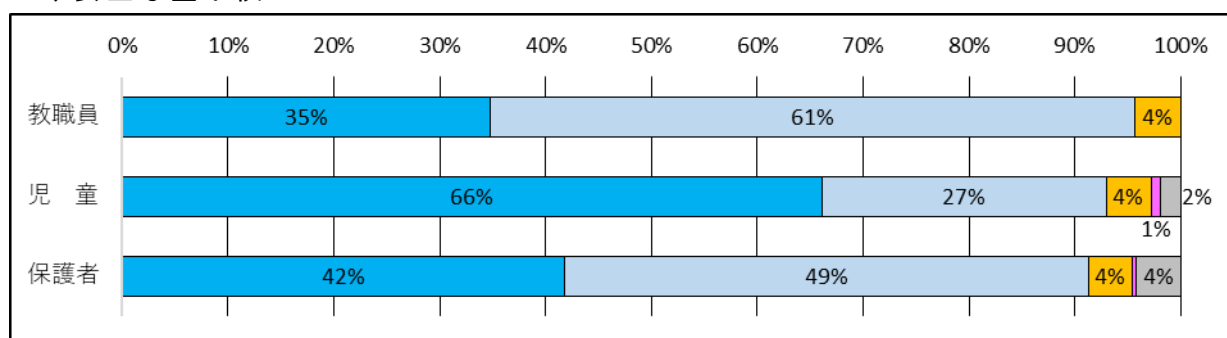
③ 心の輪をつなぐ異学年交流

◇異学年交流の取り組み状況



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 100%、児童 95%でした（前期：教職員 100%、児童 95%）。2学期も、なかよし集会、なかよしタイムで、ペア学年の子（1－6年、2－4年、3－5年）と仲よく遊ぶことができました。3学期は、防災学習のまとめとして、1学年下の子たちに学んだことや課題を伝えるバトンタッチの会を実施しています。ここでは質疑応答などを通して、互いに切磋琢磨する活動を行っています。これからも子どもたちが楽しみにしている異学年交流を積極的に実施していきます。

◇安全な登下校について

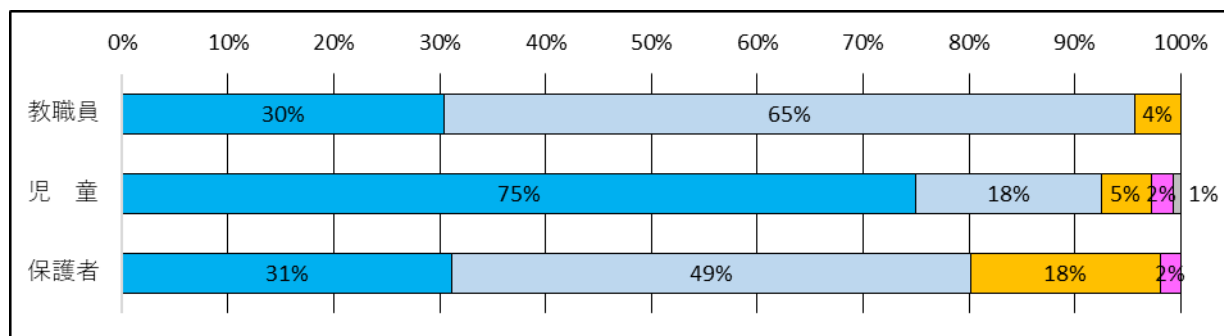


「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 96%、児童 93%、保護者 91%でした（前期：教職員 96%、児童 93%、保護者 85%）。引き続き登校・下校時に教職員が立哨指導を行うとともに、各通学班の困りごとを丁寧に聞き取って対応していきます。保護者の皆様も登下校の様子を見ていて気になる点があれば、その場で子どもたちに注意していただけると助かります。

可能性をひらく

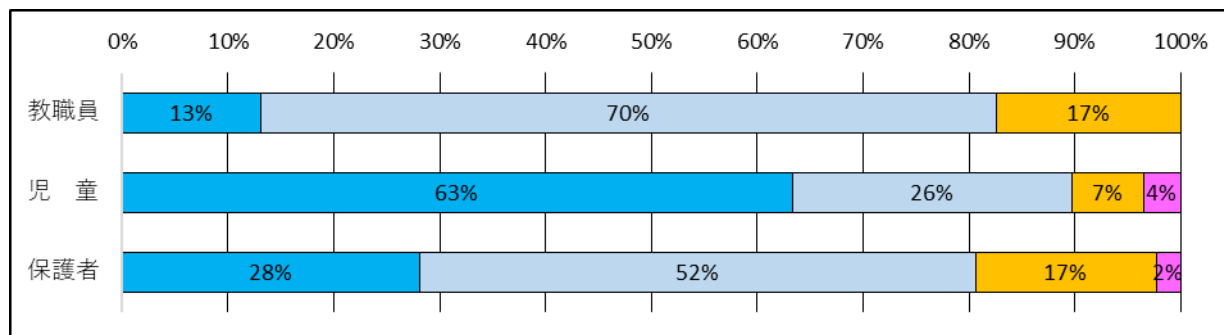
① わかる・できる喜びを味わう基礎学力や体力の育成

◇努力賞テストの取り組みについて



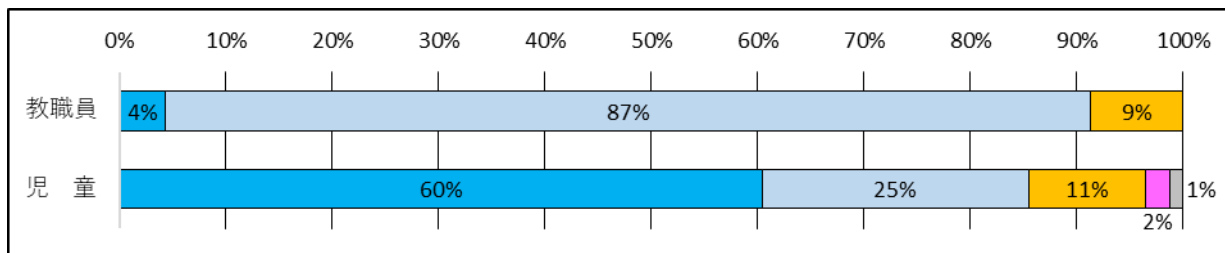
「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 95%、児童 93%、保護者 80%でした（前期：教職員 100%、児童 94%、保護者 84%）。努力賞テストの出題内容は、読み・書き・計算などの基本的な知識・技能です。その学年で身につけないと次の学年の学習で困ってしまう必須の内容です。子どもたちにもその趣旨を十分に説明し、学校全体で合格（80点以上）をめざして、テスト2～3週間前から対策プリントなどに取り組んでいます。ご家庭でも間違えた問題の直しを見ていただけるとありがたいです。

◇家庭学習の取り組みについて



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 83%、児童 89%、保護者 80%でした（前期：教職員 91%、児童 91%、保護者 84%）。学校で学習したことを定着させるために家庭学習はとても大切ですので、宿題にしっかりと取り組むように学校全体で指導しています。お忙しい中、たいへん恐縮ですが、ご家庭でも、音読を聞いていただくことや丸つけなど、充実した家庭学習ができるようご協力いただけるとありがたいです。

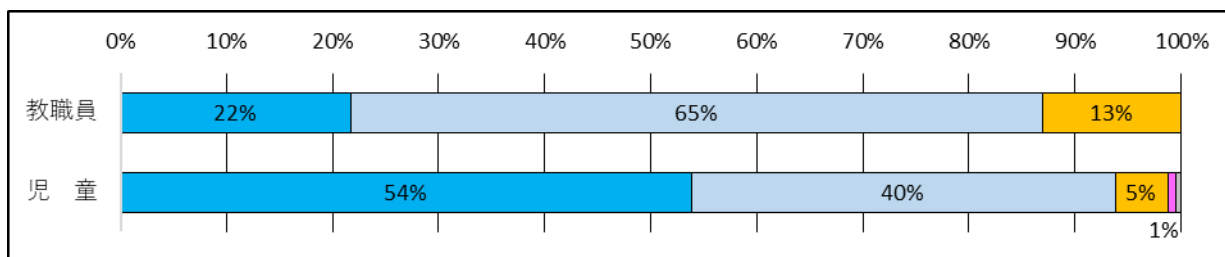
◇運動への取り組みについて



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 91%、児童 85%でした（前期：教職員 92%、児童 89%）。学校全体で、体育の授業の準備運動として、学習内容に合わせたサーキットトレーニングを実施しています。また、休み時間での委員会企画やなかよしタイムなどで外遊びの充実に力を入れています。これからも、子どもたちに運動習慣が身につくように、さらに工夫していきます。

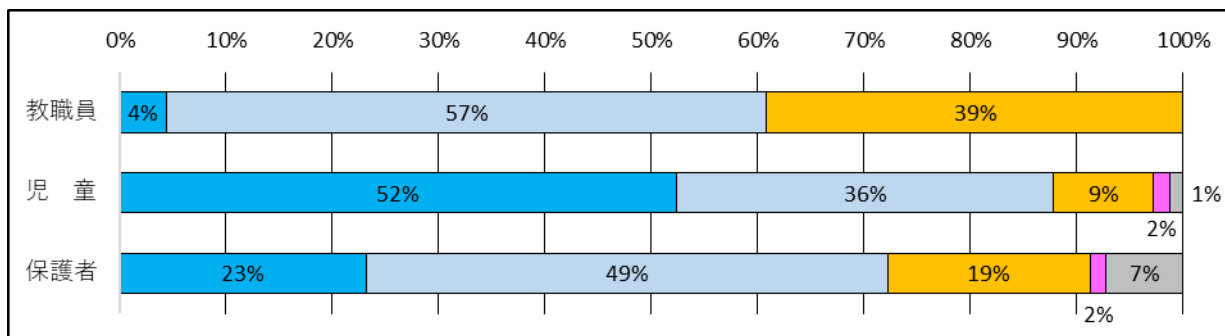
②友達とかかわり合い、学び合う授業

◇学習のルールの取り組み状況



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 87%、児童 94%でした（前期：教職員 95%、児童 94%）。学習のルールは、学び合う雰囲気をつくるとともに、落ち着いた学校生活を送るための基盤となります。今後も子どもたちが学習に集中できるよう、声をかけながら定着させていきます。

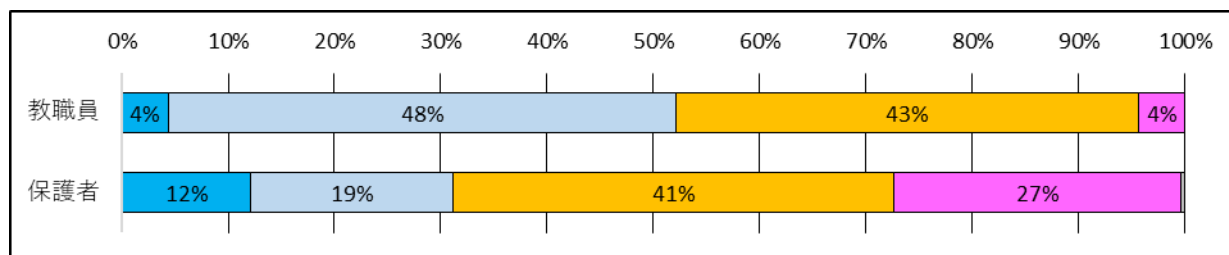
◇わかりやすく楽しい授業の実現について



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 61%、児童 88%、保護者 72%でした（前期：教職員 87%、児童 91%、保護者 74%）。今年度から西尾市教育委員会の研究委嘱を受け、算数の授業改善に取り組んでいます。新しい授業の手法を取り入れているところで教職員の評価が低下していますが、自分の力で問題を解こうと粘り強く取り組む子や、黒板の前に出て自分の考えを説明する子が増えてきました。これからも、友達と意見を交わしながら、考えを深めていく授業を実践していきます。

③ 想像の翼を広げる読書

◇読書指導について（教職員）－家庭での読書について（保護者）

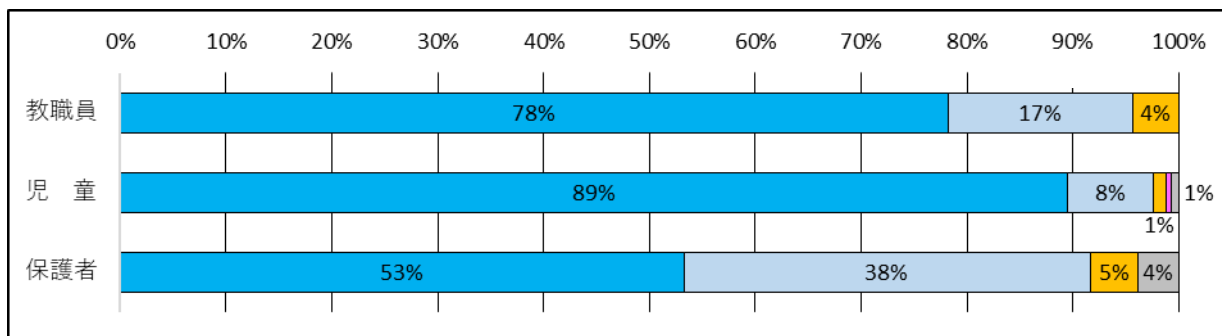


「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 52%、保護者 31%でした（前期：教職員 65%、保護者 34%）。2学期の図書室の本の貸し出し冊数は、昨年度より約 1000 冊増えました。クラスごとに図書室を利用できる時間をつくるとともに、毎週木曜日の 1 時間目に読書に取り組む時間をつくりました。次年度からは、市立図書館の長期貸出制度を利用して学級文庫を充実させる予定です。家庭でも、読書に親しめるように声をかけていただけるとありがたいです。

心ときめく

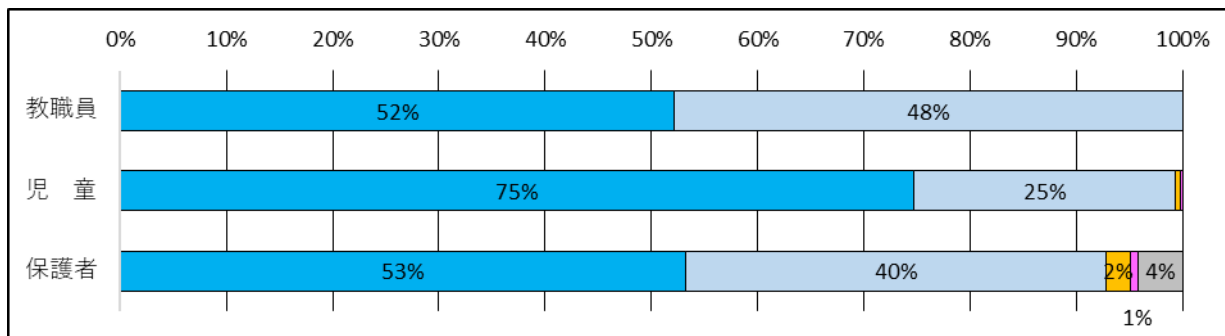
- ①地域のすばらしさを知りたいな
- ②プロの技や考えを学びたいな
- ③命の大切さを伝えたいな

◇行事、体験学習、校外学習への取り組み状況



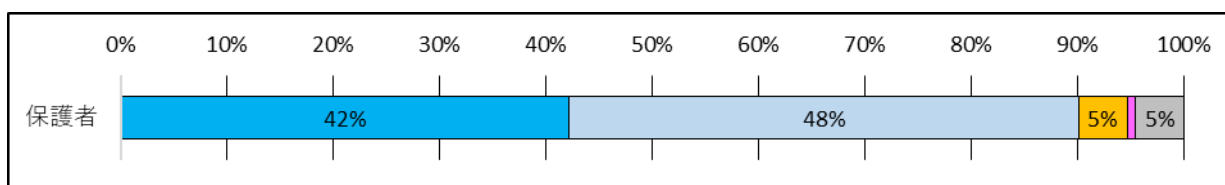
「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 95%、児童 97%、保護者 91%でした（前期：教職員 96%、児童 94%、保護者 82%）。2学期もさまざまな体験学習や校外学習を行う中で、子どもたちの笑顔がたくさん見られました。運動会やマラソン大会などの行事の取り組みでも、仲間とともに充実感や達成感を感じている姿がたくさんありました。次年度も魅力的な教材や講師を見つけて、行事、体験学習、校外学習を充実させます。

◇安全教育、防災教育への取り組み状況



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて、教職員 100%、児童 100%、保護者 93%でした（前期：教職員 100%、児童 100%、保護者 95%）。たいへん高い評価をいただきました。西尾市は南海トラフ大地震が起きた際には甚大な被害が予想されています。子どもたちは自分や周りの人の命を守るために防災学習をがんばっています。ご家庭でも機会を設けて防災について話し合っているとありがたいです。

◇家庭への情報発信の状況



「達成されている」「ほぼ達成されている」を合わせて保護者 90%でした（前期：保護者 89%）。これからも、「明日も行きたくなる学校」をめざして、子どもたちが楽しく学校生活を送っている様子をお伝えしていきます。特に、ブログに力を入れ、教育活動の写真をこまめに撮り、ご家庭へお届けします。

令和6年度 後期 学校評価アンケートの自由記述について

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。アンケートの自由記述でいただいたご意見に対しての回答を伝えさせていただきます。なお、2学期保護者会などで個別に回答させていただいたものについては掲載していません。関係機関との連携が必要なものについても同様です。また、同じ内容の意見は一つにまとめさせていただき、(複数)と入れてあります。

○肯定的な意見 ●要望、改善を求める意見 ➤回答

- 行事などの写真の販売はできませんか。(複数)
 - 現在、修学旅行と野外学習については、写真業者が同行して集合写真とスナップ写真の販売を行っています。他の行事でも業者による写真販売が可能かどうか検討します。
- 運動会の保護者の観覧方法ですが、ビデオ席を設けてほしいです。一番前の場所を前の学年の演技の時間から陣取っている家族がいて、ルールを守ってる人たちが見られないという状況がありました。運動会の後に、子供に「ちゃんと前で見ていてほしかった」と言われてしまいました。(複数)
 - 多くの皆様が観覧できるように改善を重ねて現在の会場の形に至っています。観覧方法はプログラムなどでお示ししたとおり、「演技学年保護者優先ゾーン」の交代をお願いしています。当日も、演技学年が代わるたびに放送で呼びかけています。しかし、ご意見のような状況がありますので、次年度からは改善できるように観覧方法を検討します。
- 日頃から交通安全指導をしてもらっていますが、今一度しっかりとさせていただきたいです。子どもたちが、狭い道で広がって歩いていることや、車道への飛び出し、走行している車や一旦停止している車に注意や配慮をはらわないことがあります。(複数)
 - 登下校の安全指導は常時行っており、ご意見の件はすぐに全校児童に指導しました。学校での毎週木曜日の登下校状況の振り返り、教職員による引率下校や交差点での登下校指導を行っています。また、PTAやスクールガード、交通指導員の皆様にも登下校の見守りをいただいています。保護者の皆様からも、お子様に交通安全についてお話しいただけるとありがたいです。
- 上級生があいさつしてくれると、下級生もあいさつしてくれます。上級生が頑張っているあいさつしてくれるといいと思います。
 - R6年度前期の改善策の一つとして、学校をあげてあいさつの改善に取り組みしました。児童会・学年・学級・教職員がそれぞれ、あいさつを活性化する取り組みを行った結果、元気なあいさつができるようになってきたと感じています。来校された方からもほめられるようになりました。引き続きあいさつに力を入れ、より明るい学校を目指します。
- 運動会のプログラムは紙で配付してもらえると助かります。祖父母に見せるためには紙面の方が便利です。
 - 次年度から、運動会と学習発表会のプログラムについては、すぐーるによるデジタル配信に加え、紙媒体でも配付します。

第3回 一色中部小学校関係者評価委員会記録

日 時 令和7年2月27日（木）
午前10：00から午前11：30まで
会 場 西尾市立一色中部小学校 会議室
参加者 11名（学校関係者評価委員6名
校長・教頭・教務主任・校務主任・総括事務長）

1 校長あいさつ

今年度もあと1カ月ほどになりました。今年度は、感染症への対応も一段落ついたため、給食を向かい合わせの会食スタイルに戻し、楽しい給食の時間が復活しました。これもまた、「明日も行きたくなる学校」につながる一場面であると思います。卒業式についても今年度から全校での開催に戻します。キャッチフレーズは文字通り「全校で送る卒業式」です。先生方には、行儀指導にとどまるのではなく、心から卒業生との別れを惜しむことのできる卒業式にしてほしいと話しました。そのために現在、異学年交流を中心とした、子どもたちの心を耕す取り組みを行っています。

さて、本日は後期の学校評価の結果及び更新策をお話しします。更新策の策定にあたっては、教職員一人一人が自分事として考え、手だてを考えられるようになってきました。これからお示しする更新策が適切であるか、他によい方策がないかなど、お知恵をいただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

2 後期学校評価アンケート結果並びに更新策について（教頭）

- ・「教育相談」「わかりやすく楽しい授業」「読書指導」以外の12項目は、達成基準をクリアした。教職員が各項目の手だてによく取り組み、児童も保護者もその成果を感じている。

- ・達成できなかった3項目について

「教育相談」については、前期の更新策で相談しやすい環境を整えた。子どもたちに認知されるまでもう少し時間がかかると考える。これからも児童に寄り添い、何でも相談できる信頼関係を築いていく。

「わかりやすく楽しい授業」については、今年度から西尾市教育委員会の研究委嘱を受け、算数の授業改善に取り組んでいる。新しい授業の手法を取り入れている過程であるので、教職員の評価が低下していると思われる。教職員の授業改善に関する意見については、研究推進委員会で取りまとめ、新たな指針を定めていく。

「読書指導」については、前期の更新策である「クラスごとに図書室を利用できる時間」の設定に加え、毎週木曜日の1時間目に読書に取り組む時間を作った。次年度からは、市立図書館の長期貸出制度を利用して学級文庫を充実する予定である。今後も読書好きな児童を育てていきたい。

- ・要望や改善について

「行事の写真販売」については、業者の予定もあるので、来年度に向けて可能かどうかを検討する。

「運動会の保護者の観覧方法」については、保護者の観覧マナーに関わることなので、本来なら保護者のモラルに任せたいところであるが、呼びかけだけではなかなか改善しないので

新たな方法を考えたい。

「交通安全指導」については、引き続き丁寧な指導を行っていく。

「あいさつ」については、児童会・学年・学級・教職員それぞれが、あいさつ活性化の取り組みをしてきた結果、子どもたちの元気なあいさつが聞かれるようになってきた。今後も力を入れて取り組んでいく。

「運動会と学習発表会のプログラム」については、GIGA スクール構想によりお便りのデジタル化を進めている中であるが、来年度からは紙媒体も配付していく。

3 今年度の取り組みと次年度の方針について

・研究、学習指導（校務主任）

12月以降に行った実践をもとに、子どもたちの学習の様子と現在の研究の進捗状況について説明する。12月5日に岡崎小学校の鈴木校長先生を招いて、全校授業研究会を行った。鈴木校長先生からは、算数は既習事項を使った問題解決であることをご指導いただいた。そこで授業者には、本時につながる既習事項がどの程度定着しているかを把握し、習得が不十分であれば家庭学習に取り入れるなどして授業に臨んでもらった。その結果、授業では子どもたちが多くの既習事項を示しながら発言する姿があり、スムーズに学習を進めることができた。授業者があえて誤答を示した際も、既習事項を根拠に反論する姿が見られ、既習事項を定着させることの大切さを学ぶことができた。

また、鈴木校長先生からは授業の終末場面で適用題を解いたり、問題づくりや振り返りを行ったりすることの重要性も教えていただいた。今年度の研究は、どちらかといえば授業の前半部分に焦点を当てている。後半を疎かにしているわけではないが、前半に力を入れるあまり、予定されていた終末にたどり着かない実践も見られた。この点については、次年度の大きな課題として受け止めている。

全校授業研究会後に行った実践は、終末場面に力を入れることも検討したが、これは次年度に取り組むこととし、授業の前半部分の研究方針を固めることにした。

見通しの場面では、本時で使えるような既習事項を明らかにすることに力を入れている。6年生の実践では、子どもたちが苦手とする単位換算の部分を見通しで確認した上で自力解決に進んだ。その結果、立式の誤答は少なくなったが、より計算しやすい概数にするという意識は低くなったように見えた。見通しでどこまで踏み込むかについては、今後も検討していく余地がある。

自力解決の場面では、全員が自分の考えをもち、それを表現できるようにすることを目指し、ヒントカードを工夫している。1年生の演算決定の実践では、ICT機器を用いたヒントカードだけでなく、側面掲示も活用した。これらを手掛かりとして自分の考えを表現できた子が多かった。その一方で、本時のねらいの演算決定の根拠ではなく、計算の仕方を書いている子もいた。ヒントカードや側面掲示などの個に応じた支援は今後も継続するが、授業をコントロールする教師の発問力も磨いていかねばならないと気付かされた。

ともともタイムの場面では、先生方に様々なペアリング方法を試していただいている。試行錯誤しているが、一概にこの方法がよいというものではなく、問題や自力解決の状況によって変える必要がある。どんな組み合わせでも大切なことは、聞き手がしっかり反応し、1往復の会話で終わらせず、言葉のキャッチボールを続けることが大切である。次年度もより意見が交わしやすくなる支援を考えつつ、教科の枠を超えて、子どもたちの思考をより深められるともともタイムのあり方を探っていく。

特別支援学級のわくわく学級の実践では、1・3・4年生が残金を意識しながら買い物のロールプレイを行った。在籍する5名の子どもたちは、年齢はもちろん、算数の習熟度もまちまちである。一人一人に合わせた教材開発や個別の声かけは、通常学級での個に応じた支援をする際の大きなヒントにもなりそうである。来年度は研究2年次になるが、特別支援学級も含めたすべての学級で実践を重ね、それらを共有することで、子どもたちの確かな学力を伸ばしていきたいと思う。

・体験学習（教務主任）

2年生では、キューピー株式会社から講師を迎え、マヨネーズ作りを行った。試食では自分たちで作ったマヨネーズと市販のマヨネーズの食べ比べをした。野菜の苦手な子も自分の作ったマヨネーズをつけて食べることができていた。

3年生は、カーネーション栽培をしている方を講師として迎え、フラワーアレンジメントを作った。リボンを使った飾りも作り、すてきな作品になった。メッセージカードに家族への感謝の気持ちを書いている子もいて、心温まる体験活動となった。そのほかは消防署の見学も行った。

4年生は、名古屋市科学館へ見学に出かけ、科学の面白さ、不思議さをたくさん感じていた。プラネタリウムの観賞では、理科の学習で星座について学んでいるので、興味深く見ている子がたくさんいた。見学の後に、夜に星を見たと言っている子もいた。

5年生は、デンソーサイエンススクールで電磁石作りをした。リニアモーターカーの仕組みの説明を聞いたり、身近なモーターを使った製品を見たりして、身近な科学を体験できた。

3・5・6年生は、ヒップホップダンスの体験をした。プロダンサーとして活躍されているSUGI-Jさんを講師に迎えた。基本的な動きを教わりながら、最後には曲に合わせてみんなで踊ることができた。最初は戸惑う子もいたが、最後は笑顔いっぱい、元気いっぱいに踊っていた。

特別支援学級では、己書に挑戦した。花桃道場 森田香代さんを講師に迎えた。書き順や形などにはこだわらず、想いを字に込めて書いた。書く字も子ども自身で、今年頑張りたいことをテーマに考えた。パステルで色付けし、個性あふれる作品になった。

次年度はスポーツをテーマに計画中である。デンソーエアービーズの選手、2026年度に行われるアジア大会のパラスポーツ選手を招きたいと考えている。

・「一色中部小学校PTO スマイルキッズ応援団」の設立 (PTO = Parent Teacher Organization)

社会の変化にともないPTAに求められる役割も変わり、共働き世帯の増加により現在の人数の役員・常任委員を選出するのが難しい状況になってきた。そこで今年度、活動の精選や組織の改革を検討し、「できる人が、できるときに、できることを行うボランティア団体」として、新たに「一色中部小学校PTO スマイルキッズ応援団」を設立することになった。

活動については、サポートセンターから、各種のボランティア活動への参加のお願いをし、会員の皆様にできる時に参加していただくというスタイルである。現PTAでは、役員・常任委員は28名で構成されている。任期は役員14名は2年、常任委員14名は1年である。「一色中部小学校PTO スマイルキッズ応援団」ではスタッフを8名に減らし、任期も全員1年とした。総会は書面開催とし、「すぐーる」で資料を配信し、採決は返信で行う。会費は活動を精選するとともに、全児童が購入する物については、学費に移行させることにより、ほぼ半額になる予定である。先月のPTA臨時総会で提案し、参加された皆様によって議決されたので、来年度から新組織で活動していく。

4 意見交換

委員1：授業の終末の重要性は確かにある。間違えた問題を振り返る時間は必要である。体験学習については、インターネットの画面ではわからない五感の体験は素晴らしい。2年生の子どもがマヨネーズ体験をして帰ってきた日はとても機嫌がよかった。

委員2：体験学習は魅力的である。来年度のスポーツ体験も期待できる。読書指導について、読み聞かせボランティアをしているが、一色中部小の子どもたちは聞く姿勢がしっかりできている。読書の時間が確保できるとよい。

委員3：交通立ち番をしていると、子どもたちはいいあいさつができている。SNSの取り扱いについて、今、闇バイトのような問題が起きているので、子どもたちに危険なことを教えていってほしい。

委員4：11月の自ら考える授業は感動した。保育園の子たちが小学生になって、いい授業を受けて育っているなど感じた。体験学習は、保育園でも消防署の見学やアレンジメントフラワー制作を行った。プロや企業の方の体験学習を今後保育園でも参考にしたい。

委員5：授業と交通安全とSNSについて

中学校ではしおさいタイムを行っている。数学では少し行き詰まりを感じている。算数の「ともともタイム」を参考にしたい。交通安全について、地域からご指導を受けることがある。中学生は全員自転車通学で、歩道がないところでは危険がある。小学生と接触しないように注意していきたい。PTAについては、一色中も人数を縮小していく予定である。ボランティアで成り立つか今後一色中部小の様子を参考にしたい。

委員6：「教育相談にのってくれる」教職員の評価が前回の80%から70%に下がっている原因は何ですか。

教頭：毎朝の心の天気で担任が確認していて、雨や雷の子には、担任はその日のうちに確認するようにしているが、心の天気が出てこなくても「いじめアンケート」でいじめがあったと回答する子もいる。仕組みが浸透しきれていないため、厳しい評価だった。

校務：2学期は行事が多く、子どもと対面する時間が少なかったことも要因かもしれない。

委員6：若い先生が増えている。朝子どもに「おはよう」と声をかけた時、その時の表情で調子を読み取れるようになるとよい。ノウハウを伝えていく必要がある。読書について、一色中部小は読み聞かせを積極的に行っている。家で読書の習慣がある子は家でも読書をしている。家庭で習慣がない子にどのように習慣化を図るかが課題である。体験学習は素晴らしい。子どもたちはとても喜ぶ。寺子屋でもeスポーツや和服体験を今年度行った。指導員に負担になるかを聞いたらそうでもない。先生たちも体験学習の時、リフレッシュできていると思う。

5 来年度の予定

第1回：令和7年 6月27日（金）

第2回：令和7年11月28日（金）

第3回：令和8年 2月26日（木）

6 校長謝辞